

1 自己評価

I 評価結果

○（別紙）令和2年度県立玉野高等学校評価書

◆ 参考資料

- 令和2年度学校自己評価のためのアンケート結果及び分析

II 分析・改善方策

<全体分析>

学校自己評価アンケートにおける「学校生活は全体的には、充実し、満足している」という項目は90%を超え、ここ数年で最も評価値が高い。また、保護者対象の「子どもを玉野高校に行かせたことに満足している」という項目は90%と非常に高く、保護者は好意的に学校を評価していただいている結果が得られた。一方、例年数値の高いボランティア参加に関する充実感を問う項目は、新型コロナウイルスの影響で、地域での社会貢献活動の機会がほとんどなく、低い数値になっている。

授業力向上に向けた取組である「チーム玉野」を通して、相互授業参観や公開授業等を行い、授業改善に取り組んだことがアンケート結果に現れている。一方で、生徒、保護者ともに「家庭学習」に関する数値が低い。進路指導課が中心となり、職業ガイダンスや進路講演会などを通じて学習に対する意識付けを行っているが、1・2年生に高い意識を持たせるのが難しい現状がある。

教員間でしっかりコミュニケーションがとれていると感じている教員は多い一方で、「過剰な勤務負担を感じていない」の項目は、決して高くないので、継続して働き方改革を進めていく必要がある。

<各重点における分析>

各重点項目の分析は次のとおりである。

なお、(1)～(3)は、学校評価書別紙の学校経営目標番号を示している。

- HR委員主導による「先言後礼」の徹底や、生徒会主導の挨拶運動、各担任による教室環境整備等が、落ち着いた生活習慣に結びつき、安心安全なクラス形成の柱になっていると考えられる。また、今年度は縮小された中ではあるが、学校祭を中心に、生徒が学校行事に主体的に取り組んでおり、生徒一人ひとりが、高い満足感を得ている。さらに、総合的な学習（探究）や授業の中で、プレゼンテーションやポスター発表の場面を多く設けることで、生徒の表現力向上に繋がっている。
- 毎年課題に挙げられている家庭学習時間の定着を目指し、進路指導課を中心に進路意識を持ち学習意欲に繋がるよう働きかけたが、改善されていない現状がある。また、教員の「チーム玉高」による授業力向上にも継続して取り組み、魅力ある授業を展開することで、生徒の学習意欲向上に繋げている。
- 今年度は新型コロナウイルスの影響が大きく、例年多くの生徒が参加するボランティア活動の機会がほとんどなかったため、地域で活躍する場面が見られなかった。また、情報発信ツールとして、ブログやFacebook、Instagram、Twitterを利用し、行事や学校生活等を積極的に発信した。また、学校通信を定期的に発行し、中学校や地域に配付するなどして、情報提供に努めた。

2 学校関係者評価委員名

豊田 啓介（運営協議会会長）	五老海正登（運営協議会委員）	稲田 秀知（運営協議会委員）
恵谷 栄一（運営協議会委員）	大倉 明（運営協議会委員）	大塚 雅嗣（運営協議会委員）
川島 ゆか（運営協議会委員）	田中 久美（運営協議会委員）	西川 竜馬（運営協議会委員）
福本 泰久（運営協議会委員）	藤原 直之（運営協議会委員）	水田 忠和（運営協議会委員）
山崎 裕正（運営協議会委員）	山根 一人（運営協議会委員）	

別添1（様式）

3 学校関係者評価

<全般的な評価の概要>

- 学校自己評価について、今年度の取組についての評価は適正と判断された。あわせて今後の学校経営について、提言・意見が出された。

<学校の現状・生徒の実態についての提言・意見>

- 生徒の充実感、保護者の満足感が高いことは学校の取組の成果である。
- 玉野高校の先生方は、目の前の生徒一人ひとりを大切にしている。
- 玉野高校の取組はすばらしいが、志望者増に繋がっていない。中学生のニーズを分析する必要がある。

<普通科高校のあり方・教員の取組についての提言・意見>

- 単位制への移行だけでは、中学生のニーズを満たしていないので、難関校への進学希望者をターゲットにもっと改革するべきである。
- 玉野高校の先生は魅力のある先生が多いので、もっと情報を発信すべきである。
- 他校にはない玉野高校の強みを持ち、アピールするのはどうか。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

(1) 「熱く 温かく いきいきと」の実践

- ① 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上
(挨拶・返事、整理整頓、学校環境の整備、健康管理)
- ② 自他の良さを認め、互いに協力し合える温かい言葉遣いや行動
(「ありがとう」のあふれる学校、人権の尊重)
- ③ 主体的行動による、自己研鑽
(学校行事、生徒会活動、部活動)

(2) 学力向上と進路実現

- ① 知識・技能の生成・習得
(知識・技能の構造化 統合化を促す)
- ② 思考力・判断力・表現力を育む活動
(探求的な学習課題の設定、AL型授業の視点に基づいた授業実践)
- ③ 学びに向かう力・人間性の涵養
(ポートフォリオ作成、プレゼン力、傾聴力等コミュニケーション能力育成)

(3) キャリア教育の推進と地域等との連携

- ① 生徒が主体的に参画する社会貢献活動の実施
(瀬戸内芸術祭への参加、SDGs、インターンシップ、ボランティア活動等)
- ② 幼保小中学校や各種団体、同窓生との教育連携
(出前講座、職業ガイダンス、地域資源の活用等)
- ③ 様々なツールによる積極的な情報発信